

# 1世帯1ヵ月のこづかいは5万7千円 ……………

1. 昭和55年9月1ヵ月間における全世帯1世帯当たりこづかい消費支出は、5万7千円、家計消費支出の4分の1に相当

このこづかい調査でいう「こづかい」は、調査世帯の世帯員のうち、昭和55年4月1日現在で満15歳以上の者〔すなわち、一般的には、中学校卒業者に相当する。ただし、家計簿（世帯用）の記入者は除いた。〕各人が個人的に自由に処分できる「お金」と定義して調査したものである。したがって、人によっては、家計から支出されるものでも、「個人的に自由に処分できるこづかい」から支出されれば、ここでいう「こづかい」に含まれることになる。

「こづかい」からの支出のうち、貯金、借金返済など見せ掛けの支出等を差し引いた「こづかい消費支出」は、1世帯当たりにして全世帯で57,193円であった。同時に調査した家計消費支出（こづかい消費支出を含む。）は228,764円であったから、こづかいとしての消費支出は、家計消費支出の25.0%で、ちょうど4分の1を占めている。1世帯当たり消費支出のうち、世帯主（男のみ）が支出した分は40,632円で、家計消費支出の17.8%である。

2. 勤労者世帯の1世帯当たりこづかい消費支出は5万3千円で、家計実収入の19%

勤労者世帯における1世帯当たりこづかい消費支出は、52,741円で、家計消費支出に占める割合は23.0%であったから、個人営業世帯などを含めた全世帯の結果より、金額、割合ともに、若干低い結果を示した。また、このこづかい消費支出は、家計実収入（282,311円）の18.7%であった。

1世帯当たりこづかい消費支出を、世帯主（男）に限定してみると、1世帯当たりの世帯主（男）のこづかい消費支出は41,645円で、世帯主の勤め先収入（240,029円）の17.3%であった。すなわち、世帯主が、働いて得た収入のうち、世帯主自身が、個人的に使えるのは、2割に満たず、約6分の1程度ということができる。

3. こづかい消費支出の主な内訳は、外食、教養娯楽、たばこなど

全世帯1世帯当たりこづかい消費支出の内訳をみると、最も多額な費目は食料で20,544円（こづかい消費支出の35.9%。以下同じ。）を支出しており、以下、主な費目を挙げると、教養娯楽13,862円（24.2%）、たばこ、贈与金などの「その他の消費支出」10,235円（17.9%）、交通通信6,968円（12.2%）、となっており、これらだけでこづかい消費支

出の90%以上を占めているから、こづかいの用途はかなり限定されている。

更に、これらの費目の主な内容を見ると、次のとおりである。

食料……………外食が圧倒的に多く、こづかい消費支出の27.9%。外食の内訳をみると、飲酒代（こづかい消費支出の12.8%。以下同じ。）、食事代（11.3%）、喫茶代（3.8%）となっている。教養娯楽…観覧・入場・ゲーム代を中心とする教養娯楽サービス（16.2%）、教養娯楽用品（4.1%）、書籍・他の印刷物（3.1%）。

その他の消費支出…たばこ（5.4%）、贈与金（4.5%）、理美容関係（3.3%）。

交通通信…交通（6.0%）、ガソリン代を中心とする自動車等維持（5.7%）。

4. こづかいに回す分がかなり多い大都市の世帯

調査市町村を人口100万以上の大都市と50万～100万の中都市、その他の市町村に分けて、全世帯1世帯当たりのこづかい消費支出をみると、大都市の世帯では68,952円と、中都市及びその他の市町村の53,000円程度に比べ、かなり多くなっている。また、大都市の世帯のこづかい消費支出は、家計消費支出に占める割合も28.5%と、その他の市町村の24%程度に比べ高く、大都市の世帯では、こづかいに回す分がかなり多いことがうかがわれる。こづかい消費支出の内訳をみても、大都市では、外食、教養娯楽サービスなどへ支出する割合が中都市、その他の市町村に比べて高いのに対し、中都市、その他の市町村では、自動車等関係費、教養娯楽用品、たばこなどへの支出割合が高くなっている。このように、大都市と大都市以外とは、環境の違いもあって、こづかいの額、使い方にかなりの違いがみられる。

5. 世帯主が50歳代の世帯の1世帯当たりこづかいは家計消費支出の3分の1

世帯主の年齢別に全世帯1世帯当たりこづかい消費支出をみると、世帯主が50歳代の世帯のこづかい消費支出が最も多く82,989円、次いで40歳代の世帯が62,401円、60歳以上の世帯47,260円、30歳代の世帯が最も少なく42,909円と50歳代の約半分である。家計消費支出に占める割合をみても50歳代の世帯では、30.7%と約3分の1を占めて最も高く、60歳以上の世帯では26.7%、40歳代の世帯では23.3%、

## …………… 総理府統計局「こづかい調査報告(昭和55年9月)」から

30歳代の世帯では21.7%となっている。このように、世帯主が50歳代の世帯のこづかい支出は、額、割合とも高いが、これらのこづかいをすべて世帯主が使っているわけではない。この1世帯当たりこづかい消費支出を世帯主(男)だけに限定してみると、50歳代の世帯をはじめ、高齢世帯でこづかい消費支出が多いのは、世帯主以外の世帯員のこづかいのウエイトが高いためであることが分かる。すなわち、世帯主だけの1世帯当たりこづかい消費支出は、50歳代の世帯では43,081円(家計消費支出に占める割合は15.9%。以下同じ。)と世帯全体のこづかい消費支出に比べ半減するのであって、その差約4万円は世帯主以外の世帯員(そのほとんどが子女と思われる。)が使っているのである。これに対し、30歳代の世帯では、世帯主の1世帯当たりこづかい消費支出は、38,812円(19.7%)と、世帯全体のこづかい消費支出のほとんどを世帯主が使っている。なお、同様に40歳代、60歳以上の世帯についてみると、40歳代の世帯の世帯主の1世帯当たりこづかい消費支出は、46,335円(17.3%)、60歳以上の世帯では29,127円(16.5%)となっており、世帯主の使う分はかなり限られている。

### 6. 1人当たりこづかい消費支出は約4万円、男はレジャー、女はおしゃれに使っている

15歳以上世帯員(家計簿(世帯用)記入者を除く。)のこづかい消費支出を、1人当たりの平均値でみると、38,396円で、そのうち男は40,127円、女は31,422円、男の方が約9,000円多いという結果であった。

こづかい消費支出の主な内訳を男女別にみると、男は、飲酒代(こづかい消費支出の14.9%。以下同じ。)、観覧・入場・ゲーム代(13.9%)、食事代(12.4%)、自動車等維持(6.6%)、たばこ(6.4%)、交通費(6.0%)などへの支出が多いのに対し、女は、洋服、シャツ・セーター類(11.2%)、美容関係(7.0%)、交通費(6.1%)、食事代(6.0%)、贈与金(5.7%)などへの支出が多く、男はレジャー的要素、女はおしゃれ的要素の強い支出構造となっている。

### 7. 世帯主の1人当たりこづかい消費支出は4万2千円

世帯主(男)のこづかい消費支出をみると、1人当たりで42,401円であった。これを年齢別にみると、40歳代及び50歳代ではほぼ同程度の額を示しており、それぞれ47,665円、45,348円となっている。これ以外の年代では、額は少なくなって、20歳代、30歳代がそれぞれ38,124円、39,820円と4万円弱となっており、更に60歳代では33,132円と少なく

なっている。

その内訳をみると、20歳代及び30歳代では、外食代、40歳代及び50歳代では、教養娯楽サービス、60歳代では、贈与金や「その他の雑費」への支出割合が高いということが主な特徴であった。なお、こづかい消費支出が平均(42,401円)に満たない世帯主は61.6%あった。

### 8. 世帯内の単身就業者の平均こづかい消費支出は5万5千円

世帯内の単身就業者が大半であると考えられる20歳代の「世帯主以外の就業者」のこづかい消費支出は54,806円と、かなり高額であった。その内訳をみると、食事代、飲酒代などへの支出割合が高い反面、月謝類への支出割合も高くなっているのが特徴的で、その他では、交通費、自動車等維持、洋服、理美容関係費への支出割合が高くなっている。

学生・生徒についてみると、男のこづかい消費支出は、1人当たり16,007円、女は16,804円と男女間で大きな差はなかった。しかし、その使途をみると、男は、特に、外食、教養娯楽サービス、教養娯楽用品、交通費、自動車等維持などへの支出割合が高く、レジャー的要素がかなり濃い支出内訳となっているのに対し、女は、被服関係、美容関係、外食、交通費の支出割合が高く、おしゃれ的要素の強い支出内訳となっている。なお、女子勤労者のこづかい支出をみると、1人当たりこづかい消費支出は、43,343円とかなり高く、その支出内訳では、女子学生・生徒に特徴的であったおしゃれ的要素が強く表われている反面、月謝類の支出割合も高くなっている。

なお、15歳未満の子供に対する、こづかいの与え方をアンケートした結果によると、約4分の1の26.6%の子供が、定期的にこづかいを与えられており、その平均こづかい額は1ヵ月当たり1,425円であった。子供の年齢別にみると、12歳未満は大体1,000円程度、12歳以上15歳未満は、2,000円程度である。